

(別記様式第3号)

普及活動検討会実施報告書

栗原農業改良普及センター

実施月日：令和8年2月2日

実施場所：栗原合同庁舎

1 検討内容

No.	検討項目
1	令和7年度完了プロジェクト課題について
2	令和8年度普及指導方針及び普及指導計画全体像について
3	令和8年度プロジェクト課題計画について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	1
若手・女性農業者	2	学識経験者	1
市町村	1	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
No.1（令和7年度完了プロジェクト課題について）	3.9	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none">各事業で成果が見られる点は高く評価できる。一方で継続的な課題も残っているが、技術面については今後さらに普及を進めてほしい。今後は大規模化による効率化のみならず、高齢・小規模農家が多い地域の現状にも対応した技術普及の展開も求めたい。普及センターやJA、農業者が一体となって栗原の農業を内側から強化・発信し、継続的に支援していくことが必要。 <p>【課題 No1 「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保」】</p> <ul style="list-style-type: none">加工用たまねぎの直播栽培は、天候不順や播種の遅れにより、令和7年産が収穫皆無となるなど厳しい状況に直面したのは残念。また、経営判断により作付を断念する生産者が現れたことは大きな課題であり、収入安定に向けた技術改善と生産者との連携強化が急務である。	<ul style="list-style-type: none">各プロジェクト課題とも、得られた成果は他の農業者への横展開を図り、地域の現状を踏まえつつ課題解決につなげてまいります。加工用たまねぎや大豆栽培の推進では、露地栽培であるため作柄が気象条件に左右されやすいという課題がありますが、排水対策や作型などの栽培方法の改善などの研究も進んでいます。今後も、試験研究機関等と連携し、安定生産に向け支援してまいります。「課題 No1」、「課題 No2」については、これまでの成果を基に、明らかとなった

		<ul style="list-style-type: none"> ・令和 8 年産については、作業日程の調整や栽培指導によって生育が順調に推移している点は評価できる。今後は適期播種を徹底するとともに、病害虫や雑草の適期防除に向けた継続的な指導をお願いしたい。 <p>【課題 No 2 「金成有壁地区の活性化ビジョンの実現」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流事業の実施や法人設立の決定など、全体として着実な成果を上げている点を評価する。特に地元組織と酒造会社との連携イベントは地域活性化に寄与しているが、主催者の運営負担軽減に向けて「くりはらツーリズムネットワーク」等の活用を検討すべき。また、酒米栽培については契約動向などに不透明感があるため、引き続き注視する必要がある。 <p>【課題 No 3 「土地利用型経営体の大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量の向上は見られるものの、依然として県平均を下回っているため、天候要因を考慮した上でもさらなる改善が必要。 ・「水稻・大豆作業解析シート」を用いた「見える化」の取り組みは、課題と成果の把握に非常に有効であり、他の生産者への積極的な普及が望まれる。本プロジェクトは今年度で終了するが、蓄積された成果を地域全体に浸透させ、継続的な単収向上につなげていくことが重要。 	<p>課題の解決に向け、次年度も新規プロジェクト課題として継続支援してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「課題 No 3」は令和 7 年度でプロジェクト課題としての活動は終了しますが、次年度の重点活動の中で関係機関とともにフォローアップしてまいります。
No. 2 (令和 8 年度普及指導方針及び普及指導計画全体像について)	4. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業の現状を精査した上で指導計画が立てられている点を評価する。 ・伸び悩む園芸振興については、優良事例を基にした土地利用型園芸の推進に大いに期待している。あわせて、重点活動にある大豆の単収向上や水稻の省力化・低コスト化を図る乾田直播等の技術普及についても、関係機関と連携した支援を期待したい。 ・現場指導においては農家の規模や心情に寄り添った対応を心がけることが、施策の浸透につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者や関係機関等と連携し、社会情勢の変化に適応しながら、地域課題に焦点を当てた普及指導計画の策定、活動実施に努めてまいります。 ・園芸振興や大豆の単収向上、水稻の乾田直播等の技術については、これまで得られた成果や既存の知見を活用し、優良事例を積み重ね、関係機関と連携して広く普及を図ってまいります。 ・現地指導等の普及活動の際には農業者の心情に寄り添った丁寧な対応を心がけてまいります。

No.3 (令和8年度プロジェクト課題計画について)	4. 1	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた技術向上や、農業法人の運営安定化への取り組みを評価する。今後は、法人の経営モデル構築に期待するとともに、個別経営体や小規模農家に対しても営農指導をお願いしたい。 <p>【課題 No1 「加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による土地利用型経営体の発展」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗原市の推奨作物である加工用たまねぎの普及には、これまでのデータを踏まえた積極的な支援が不可欠。収量目標の達成と経営体の所得向上に向けた技術支援を評価したい。 今後は当地区に適した品種の選定や適期播種の再検討など、直播栽培の有用性も含めて分析する必要がある。県や市、JAによる手厚い助成体系もあることから、他の生産者も参加できるような成功事例の構築を期待したい。 <p>【課題 No2 「農地整備を契機に設立した農業法人の運営安定化」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有壁地区のような地域活性化の事例は今後増加が見込まれる一方、令和15年の圃場整備完了を見据えた息の長い支援と協力が不可欠。当面の課題である法人の運営安定化や酒造組合との連携強化に加え、近年懸念されている酒造好適米の作付減少を防ぎ、地域で安定的な生産・確保ができる体制づくりへの支援をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各新規課題とも、頂いた御意見を念頭に置きながら、よりよい成果が得られるよう、令和6、7年度での完了課題の実績を生かしつつ、新たな視点を入れて着実に活動を行ってまいります。また、得られた成果は横展開を図り、地域全体の課題解決につなげてまいります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> 農業者人口の高齢化と担い手不足が最も深刻な課題だと考える。農業を「儲かる・魅力がある・続けられる」職業として伝えるため、教育現場での体験学習を充実させ、SNS等のメディアを活用した情報発信を農家だけでなく行政も一体となって強化すべき。 多くのプロジェクト課題を展開して地域農業及び経済の発展に向けて活動を展開されていることを理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいた御意見等につきましては、普及活動を実施する際に意識して取り組んでまいります。また、普及センターとして、地域全体の課題を整理し、早急に取り組むべき課題について関係機関と連携を図りながら重点的に支援してまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する。